

プロジェクト名 | ヤマト住建・2050先導型住宅 — 耐震災・在宅避難継続型モデル —

レジリエンス措置の内容

＜想定するリスク（課題） およびその背景・必要性＞

- 想定リスク：地震、停電、ライフライン途絶
- 背景・必要性：近年の大規模地震では、住宅が倒壊を免れても建物損傷や停電等により生活継続が困難となり、避難所生活を余儀なくされる事例が発生している。2050年に向けた高齢化の進展により、災害時においても住み慣れた自宅で生活を継続できる住宅が求められている。

＜提案・解決策＞

①平常時、②発災時、③発災直後、④回復期の各フェーズにおいて、「災害後も住み続けられる住宅」の実現に向けた提案・解決策及び実施手法を右図に示す。

措置の適用範囲：一戸単位での措置



提案内容の先導性	提案内容の実現可能性	提案内容の普及可能性
耐震・制振性能に加え、高断熱性能、全負荷200V対応蓄電池と省電力エアコンを組み合わせることにより停電時においても健康を維持しながら生活を継続できる「在宅避難継続住宅」を実現する。	耐震等級3、制振装置、高断熱性能、太陽光発電設備及び全負荷200V対応蓄電池はいずれも採用実績を有しており、ヤマト住建の設計・施工・維持管理体制により確実な実施が可能である。	自然災害の頻発や高齢化の進展に伴い、在宅避難へのニーズは高まっている。本提案は一般的な木造戸建住宅へ適用可能であり、幅広い普及が期待できる。

効果検証の方法

通常の方法	災害が発生した場合に、特別に実施する方法
下記内容についてのアンケート調査により有効性を把握・検証する。 ● 防災意識の変化 ● 在宅避難への安心感 ● 太陽光発電及び蓄電池利用状況 ● 住宅性能満足度 等	下記内容の調査を実施し損傷抑制効果及び生活継続効果を検証する。 ● 建物損傷状況 ● 停電継続時間 ● 在宅避難継続日数 ● 避難所利用の有無 ● 補修費用 等